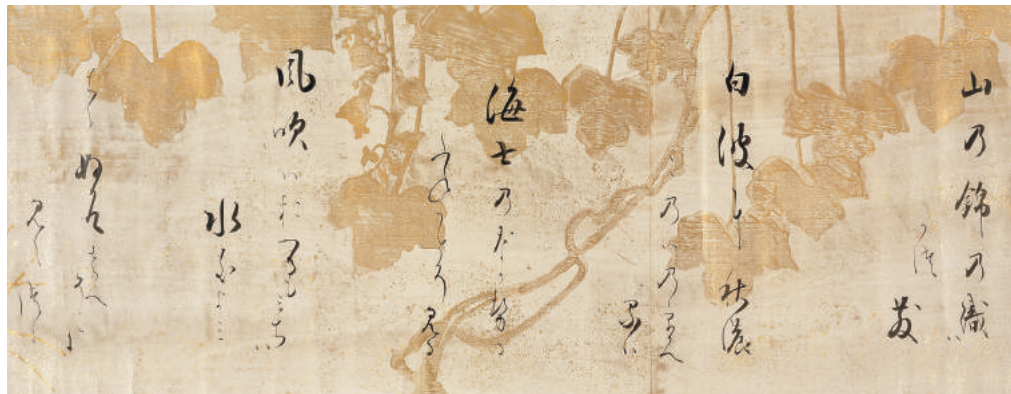


17世紀、京都は古典文化と最新の流行の発信地でした。俵屋宗達は京都で扇や料紙装飾を制作し、その作品は町衆や公家など都の文化人達に愛されました。中でも宗達の作品を好んだのが、個性的な能書家である本阿弥光悦や烏丸光廣です。宗達の絵とそこに書かれた彼らの書は、競い合いながら華やかな古典の世界を創造しました。



花卉摺絵古今集和歌巻(部分) 書：本阿弥光悦筆 版下絵：俵屋宗達筆(後期)

西行物語絵巻 物語を奏でる

この西行物語絵巻は、宮中所蔵の西行物語絵巻(室町時代)を元に、高位の公家で一流の文化人である烏丸光廣が詞書を書き、京の人気絵師・俵屋宗達が絵を模写したものです。この絵巻には、宗達の個性が随所に見て取れます。例えば、樹木や岩の彩色には、もやもやと絵の具をにじませた「たらし込み」という技法が用いられています。これは、宗達が生み出し、尾形光琳や酒井抱一たちも用いた琳派独自の技法です。

この絵巻制作の依頼者は、福井藩家老で府中(現越前市)領主でもあった本多富正です。しかし、この絵巻は萩(山口)の毛利家に伝えられました。その理由は明らかではありませんが、江戸時代初期の松平家と萩の毛利家は何重にも婚姻関係を結んでおり、そのことが背景にあるのではないかと考えられています。



西行物語絵巻 二巻(部分)
詞書：烏丸光廣筆 画：俵屋宗達筆 重要文化財(前期)



西行物語絵巻 四巻(部分)
詞書：烏丸光廣筆 画：俵屋宗達筆 重要文化財(後期)

講演会

4月15日(日) 14:00 ~
「江戸絵画の幕開け―又兵衛と宗達の魅力―」
講師 = 笠嶋忠幸氏(出光美術館学芸員)
場所 = 当館講堂

見どころ講座

4月21日(土) 14:00 ~
講師 = 齋藤千穂(当館学芸員)
場所 = 当館講堂

「展示解説シート No. 25」
平成19年3月24日発行
福井市立郷土歴史博物館
〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1
電話 0776-21-0489 FAX 0776-21-1489
担当：齋藤 千穂 印刷：白崎印刷株式会社



出光美術館コレクション 岩佐又兵衛と俵屋宗達

- 前期
平成19年3月24日(土)~4月15日(日)
 - 後期
平成19年4月17日(火)~5月6日(日)
- 休館日 / 4月16日(月)

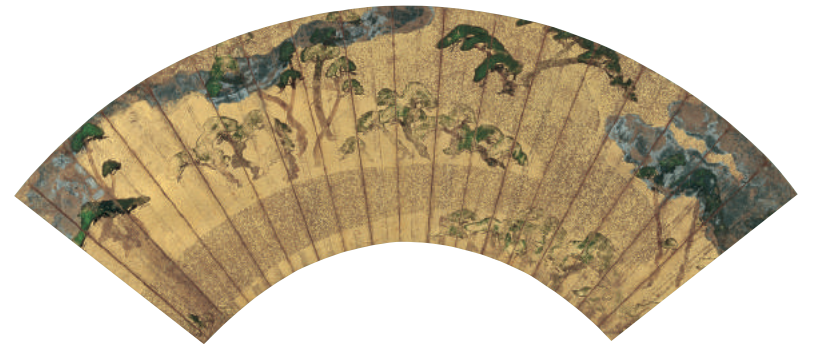
戦乱の時代から泰平の時代へ、17世紀初めは時代の大きな転換期でした。京や江戸をはじめとする都市では城や屋敷、社寺が次々と建設されました。また、伝統儀礼や古典文化の復興とともに、歌舞伎や人形浄瑠璃など新たな文化も生まれています。

福井でも、城下町が整えられ、文化人や技術者が集められました。京都から北庄(後に福井と改称。以下福井)へやってきた岩佐又兵衛もその中の一人と思われます。又兵衛は近世初期の美術を代表する絵師の一人であり、福井で多くの代表作を制作しました。そして、彼と同時代に文化の中心地・京都で活躍していたのが俵屋宗達です。

出光美術館のコレクションから、古典から個性豊かな絵画を制作した二人の作品を中心に、時代が大きく変わる中で創られた近世初期の美術をご紹介します。



三十六歌仙図「高光」 岩佐又兵衛筆(後期)



浜松図扇面 伝 俵屋宗達筆(前期)

第1章

桃山から江戸へ

又兵衛と宗達が活躍した17世紀初めは、戦乱が終結し、長い江戸時代の社会や秩序の基盤が作られた時期です。平和と安定を背景に、公家や武家、豊かな町衆たちは、新たな文化を作り出していました。

桃山時代を代表する北陸出身の絵師・長谷川等伯の絵画や都市の賑わいを描いた作品からは、時代のエネルギーが伝わってくるようです。



竹鶴図屏風(左隻) 長谷川等伯筆(前期)

都を描く、江戸に遊ぶ―又兵衛と宗達の活躍の場―

又兵衛や宗達が活躍した頃の京都や江戸の町を描いた絵画が多く残されています。そこには、季節ごとの行事や毎日の生活が、名所行楽地を舞台に極彩色で描かれています。絵の中には「今」をたくましく生きるエネルギーに溢れた庶民の姿とともに、秩序が整えられる中で社会からはみ出てしまった、アウトロー(かぶき者)達の姿も見受けられます。

京都を描いた洛中洛外図の多さに比べて、將軍様のお膝元である江戸の町の初期の姿を描いた絵画は、それほど多くはありません。この江戸名所図屏風は、明暦の大火(明暦3年・1657年)以前の江戸の町を描いた現存最古の江戸図です。そこには今まさに生まれ、成長していく江戸の様子が、民衆の生き生きとした姿で表されています。

これら風俗画を見ていると、まるで自分も京や江戸を旅しているような気持ちになってきます。

洛中洛外図屏風(部分)(前期)



ただ今上演中。観衆が集まっています。



二条城が威風を見せています。

江戸名所図屏風(部分)(後期)



右隻・かぶき者たちの喧嘩。俠気ある彼らの姿が、やがて荒事歌舞伎を生み出すのです。



右隻・豪華な御成門を備えた武家屋敷。位置などから越前松平家の江戸藩邸と考えられます。



左隻・美少年たちが演じる若衆歌舞伎。歌舞伎は江戸時代最大の娯楽でした。



左隻・銀座周辺の賑わいの様子。建設中の町家には活気が溢れています。

第2章

岩佐又兵衛と古典物語絵

岩佐又兵衛は、織田信長に仕えた戦国武将・荒木村重の子として生まれました。しかし、生後間もなく父が謀反を起こして一族は処刑され、又兵衛は乳母によって落城する城から脱出したと言います。その後、京都で成長した又兵衛は、絵師となり生計を立てたようです。元和2年(1616)39歳の時、京都から二代藩主松平忠直が治める福井へやって来ました。その後、江戸へ下向するまでの約20年間を福井で過ごしています。

又兵衛は、風俗画を描き「浮世又兵衛」とも呼ばれた一方で、歌仙絵や物語絵など伝統的な作品を多く制作しました。古典作品や様々な画派の絵画を学んだ又兵衛は、伝統の中に新しさを加えて独自の世界を作り上げました。



耕作図(右隻) 岩佐又兵衛筆 重要美術品(後期)
又兵衛が江戸へ下向した後の晩年の代表作です。



在原業平図 岩佐又兵衛筆 重要美術品
(4/9～4/22展示)

又兵衛と福井

福井時代に又兵衛は多くの代表作を制作しています。その中で、豊類長頤(ふっくらとした頬と長いあご)、弓なりの立ち姿、樹木や霞の表現など、又兵衛独自の様式が作られました。古典や故事を題材にしながらも、又兵衛の人物の表情は生き生きとして、ほのかな艶かしさを感じさせます。



野々宮図(部分) 岩佐又兵衛筆 重要美術品
(4/23～5/6展示)
福井在住時代初期の作と考えられています。



伊勢物語図 岩佐又兵衛筆 重要美術品
(3/24～4/8展示)
福井在住時代後期の作と考えられています。